

# 東京2020オリンピック・パラリンピックのテストイベントの無線局検査と電波監視 ＜自転車競技で使用する無線機器の検査と電波監視のための現地調査を実施＞

東海総合通信局(局長:吉武 久)は、「READY STEADY TOKYO-自転車競技(ロード)」(7月21日開催)において無線局の落成検査と電波監視をゴール地点の富士スピードウェイ(静岡県小山町)で実施するとともに、関係者に実際に電波監視に使用される機器を用いたデモンストレーションを行いました。

本イベントは東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が主催する自転車ロードレースのテストイベントとして、来夏の本番成功に向けて競技運営及び大会運営の能力を高めることを目的として実施されました。

自転車ロードレースでは海外から計測用の無線設備が持ち込まれますが、これら設備をそのまま使用すると既存の無線設備に混信妨害を与える可能性があります。当局は関係者の一員として参加し、本番に向けての無線局の検査手法と電波監視手法を確認しました。

当局から派遣された職員7名からなる電波監視チームは、事前に使用する周波数等を調整・指定するとともに、当局から持ち込んだ測定器を使用して指定した周波数になっているかなどを確認しました。

当日は関係者の使用する無線設備に対して混信妨害が発生していないか、電波を監視したほか、当局が使用する連絡用無線の通話試験を実施しました。

電波監視は名古屋市内の東海総合通信局から遠方方位測定設備で遠隔で監視、現地では「不法無線局探索車」と「可搬型の探査機器」を使用して監視しました。

現地には、電波を可視化して発射源を特定する「電波発射源可視化装置」も持ち込みました。指定した周波数の電波発射源を実際の風景映像に重ねてモニターに映し出すAR(Augmented Reality: 拡張現実)技術を活用したもので、電波の発射源が視覚的に表示されることで明確な位置情報が共有でき効率的な探査が可能となります。大会関係者に電波監視の業務の一端を紹介するとともに、その重要性を訴えました。

東海総合通信局では、東京2020オリンピック・パラリンピックなど国際スポーツイベントにおいて無線局検査や電波監視を実施し、電波利用秩序の維持に努めて参ります。

お問い合わせ先: 電波監理部監視課

052-971-9470



無線局検査の様子



「電波発射源可視化装置」をIOC関係者に解説中